

米国

雇用統計 (2021年11月)

雇用回復鈍化のなか、FRBがテーパリング加速に踏み切るか注目

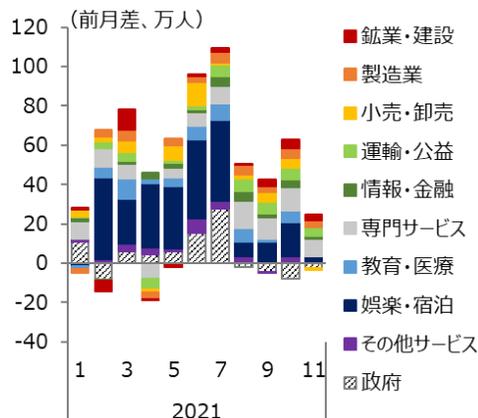
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 失業率・労働参加率



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

2 産業別雇用者数



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

評価ポイント

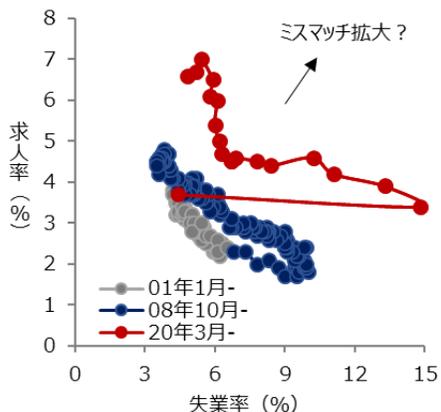
今回の結果

- 11月の非農業部門雇用者数は前月差+21.0万人となった。コロナの感染者数数のピークは過ぎたものの、年央以降、雇用者数の増加ペースは鈍化傾向にある。一方で、失業率（失業者数/労働力人口）は、4.2%と前月（4.6%）から大きく低下した（図表1,2）。また、非労働力人口は前月差▲47.3万人と3カ月ぶりに減少、労働参加率は61.8%と、前月から上昇した（図表1）。
- 産業別では、娯楽・宿泊で復職が進まず小幅な増加にとどまったほか、年末商戦の前倒し・オンライン化の影響を受けた小売では雇用が減少した（図表2）。
- 11月の時間当たり賃金は、前月比+0.3%と引き続き上昇、人手不足が深刻な娯楽・宿泊業では同+0.8%と上昇幅が大きくなっている。

基調判断と今後の流れ

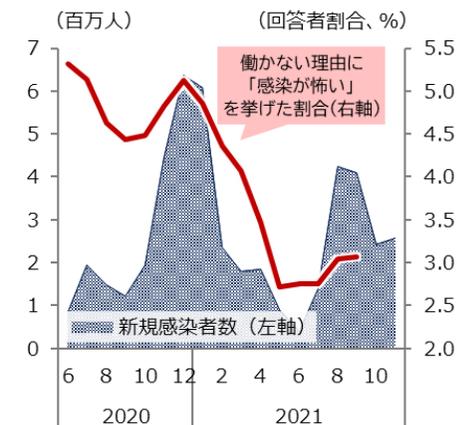
- 米労働市場の回復は足踏みしている。労働需要が強い中で雇用増加が限定的なことから、人手不足は当面続くと見られ、企業活動にも影響を与えよう。
- 失業率と求人率の関係を示すベバリッジ曲線を見ると、右上にシフトした状態が続いている（図表3）。高齢者の退職やスキルミスマッチを反映した構造的な要素と、感染が収束すれば元に戻る一時的な要素の両面があると見られるが、特に前者の要素は人手不足を長期化させるため注意が必要だ。
- オミクロン株などで冬場にかけて感染が再拡大することが当面のリスクだ。働かない理由として「感染が怖いから」と回答する失業者の割合は減少傾向ではあるものの、デルタ株の拡大局面では増加した（図表4）。オミクロン株の感染状況や毒性次第では、感染忌避から人手不足が一層深刻化する可能性がある。
- FRBは先週、これまでの労働市場の回復を重視し金融緩和縮小・引き締めを急がない姿勢から一転、足元で深刻化するインフレへの対応を優先し、テーパリング加速を検討する方針を明確にしていた。労働参加率の上昇や失業率の大きな低下など明るい材料はあるものの、低調な結果に留まった今回の雇用統計の結果やオミクロン株の警戒から、テーパリング加速を先送りするのか注目される。

3 ベバリッジ曲線 (UV曲線)



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

4 感染忌避による復職阻害



出所：CDC、米国国勢調査局より三菱総合研究所作成